

2019年度 第2四半期 決算説明会

2019年11月8日

三菱ガス化学株式会社

証券コード：4182

目次

1 | 2019年度 第2四半期 決算概要

2 | 2019年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス
～特殊芳香族化学品、光学樹脂レンズポリマー～

1 | 2019年度 第2四半期 決算概要

2 | 2019年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス ～特殊芳香族化学品、光学樹脂レンズポリマー～

2019年度 第2四半期 業績のポイント

- ◆ 減収減益。営業利益の減少に加え、持分法損益の減少幅が大きく、経常利益以下は大幅な減益
- ◆ 営業利益：
 - (+) 特殊ポリカーボネート(PC)、特殊芳香族化学品の販売数量増
 - (-) PC、高純度イソフタル酸、メタノール等の市況下落
- ◆ 持分法損益：サウジアラビア合併事業での一過性費用の計上等もあり、海外メタノール生産会社の持分法損益が大幅に悪化
- ◆ 前回予想比：営業利益上振れも、持分法損益下振れで経常利益は前回予想を若干下回る
- ◆ 配当：中間35円（前年および前回予想と同額）

2019年度 第2四半期 業績サマリー

対前年：減収減益、対前回予想：営業利益上振れ、持分法損益下振れ

【単位：億円】

	2019年度 2Q累計	2018年度 2Q累計	増 減		2019年度 2Q累計 前回予想*
			金額	%	
売上高	3,033	3,283	▲250	▲7.6%	3,100
営業利益	160	289	▲129	▲44.6%	140
(持分法損益)	(▲38)	(172)	(▲211)	-	(▲15)
経常利益	116	465	▲348	▲74.9%	120
税金等調整前四半期純利益	144	471	▲326	▲69.4%	150
親会社株主に帰属する四半期純利益	81	379	▲297	▲78.5%	90

* 2019年8月2日公表

一株当たり四半期純利益(円/株)	38.45	177.51
為替レート(JPY/USD)	109	110

為替影響：売上高▲30億円、営業利益▲8億円、経常利益▲10億円

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

2019年度 第2四半期 営業外損益・特別損益

【単位：億円】

		2019年度 2Q累計	2018年度 2Q累計	増 減
営 業 外 損 益		▲43	175	▲219
	持分法による投資損益	▲38	172	▲211
	金 融 収 支	14	12	2
	為 替 差 損 益	▲9	▲0	▲8
	そ の 他	▲10	▲8	▲1
特 別 利 益		30	15	15
	投資有価証券売却益	15	8	6
	段階取得に係る差益	10	-	10
	受 取 保 険 金	5	-	5
	固 定 資 産 売 却 益	-	7	▲7
	そ の 他	-	-	-
特 別 損 失		▲3	▲10	6
	事 故 関 連 損 失	▲1	-	▲1
	固 定 資 産 処 分 損	▲1	-	▲1
	債務保証損失引当金繰入額	-	▲6	6
	投資有価証券評価損	-	▲3	3
	そ の 他	-	-	-

- 持分法損益

天然ガス系化学品▲182
機能化学品▲25 等

- 投資有価証券売却益

政策保有株式の売却等

- 段階取得に係る差益

(株) 東邦アーステック連結子会
社化に伴い計上

(注) 本表の増減は対損益増減を示しております。

2019年度 第2四半期 貸借対照表

【単位：億円】

科目	2019年 9月末	2019年 3月末	増減
流動資産	3,519	3,788	▲269
現金預金	824	911	▲86
売掛債権	1,446	1,555	▲108
棚卸資産	1,130	1,192	▲61
その他	117	129	▲11
固定資産	4,194	4,251	▲57
有形固定資産	2,396	2,284	111
無形固定資産	108	86	22
投資その他の資産	1,688	1,880	▲192
資産合計	7,713	8,040	▲326

科目	2019年 9月末	2019年 3月末	増減
負債	2,205	2,507	▲301
買掛債務	678	800	▲122
有利子負債	861	957	▲95
その他	666	749	▲82
純資産	5,507	5,532	▲24
株主資本	4,936	4,954	▲17
その他包括利益累計額	40	75	▲34
非支配株主持分	530	503	26
負債・純資産合計	7,713	8,040	▲326
自己資本比率	64.5%	62.6%	

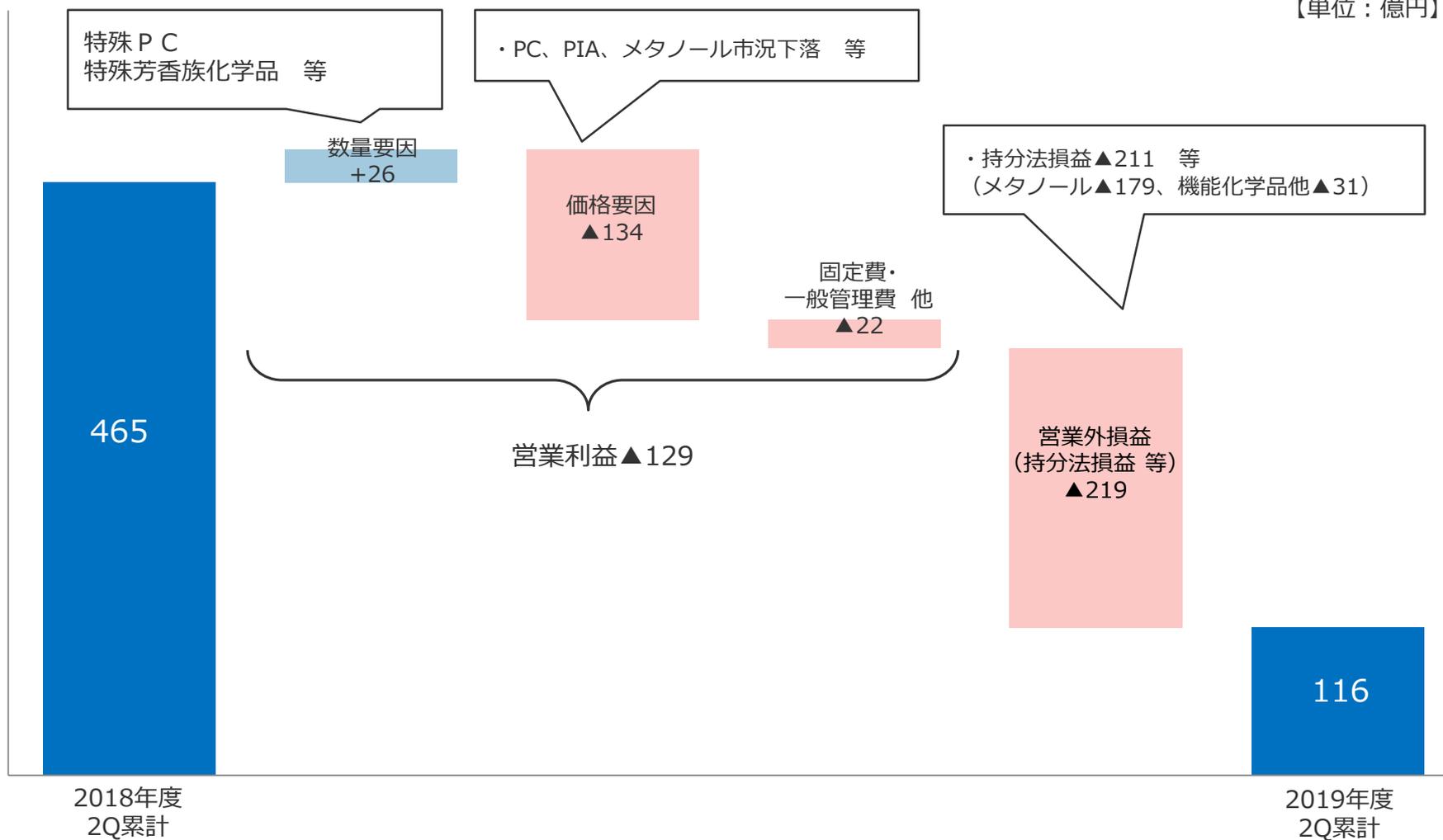
2019年度 第2四半期 キャッシュフロー計算書

【単位：億円】

	2019年度 2Q累計	2018年度 2Q累計	増減
営業キャッシュフロー	386	310	76
税金等調整前四半期純利益	144	471	▲326
減価償却費	144	135	8
持分法利益	38	▲172	211
持分法適用会社からの配当金受取額	98	71	26
運転資金等	3	▲159	162
法人税等支払額	▲42	▲35	▲6
投資キャッシュフロー	▲219	▲192	▲26
設備資金	▲215	▲182	▲32
投融資資金等	▲3	▲10	6
フリーキャッシュフロー（差引）	167	117	49
財務キャッシュフロー	▲235	▲235	▲0
借入金・社債増減等	▲123	▲160	36
自己株式取得	▲37	▲0	▲37
配当金支払額	▲74	▲74	▲0
現金及び現金同等物に係る換算差額等	▲15	7	▲23
現金及び現金同等物の増減額（合計）	▲86	▲109	23
現金及び現金同等物の期末残高	719	793	▲73

2019年度 第2四半期 経常利益 増減要因

【単位：億円】



2019年度 第2四半期 持分法損益 増減要因

【単位：億円】

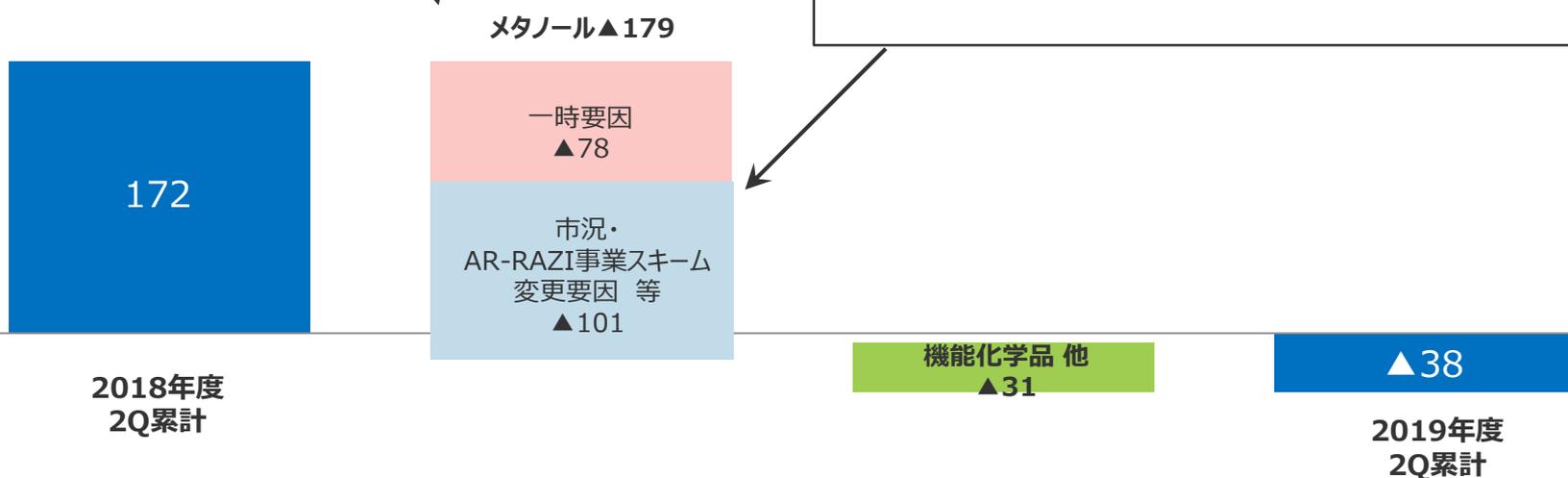
(一時的要因)

- ・ AR-RAZI※1株式売却関連損失（2Q計上の追加税金費用17億円を含む）
- ・ AR-RAZI事業スキーム変更による持分比率減少相当・延長対価償却(2018年度（12月～3月分））※2

※1 Saudi Methanol Company

※2 契約手続きが完了した2019年度1Qに、2018年12月以降の持分比率の減少、延長対価の償却を一括反映

- ・ AR-RAZI持分比率減少・延長対価償却(2019年度上期)
- ・ 市況下落(2018年度上期408ドル→2019年度上期277ドル) 等



1 | 2019年度 第2四半期 決算概要

2 | 2019年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス
～特殊芳香族化学品、光学樹脂レンズポリマー～

2019年度 通期 業績予想のポイント

- ◆ 対前回予想：営業利益▲20億円、持分法損益▲50億円
- ◆ 営業利益：上期+20億円、下期▲40億円
 - (+) 特殊PCの販売数量上振れ
 - (-) 円高、発泡プラスチック事業、メタノール市況
- ◆ 持分法損益：メタノール市況の下落、エンジニアリングプラスチック関連会社の損益下振れ等
- ◆ 期末配当（予想）：35円（前年および前回予想と同額）

2019年度 通期業績予想

持分法損益の減少、円高、発泡プラスチック事業下振れ等で下振れ

【単位：億円】

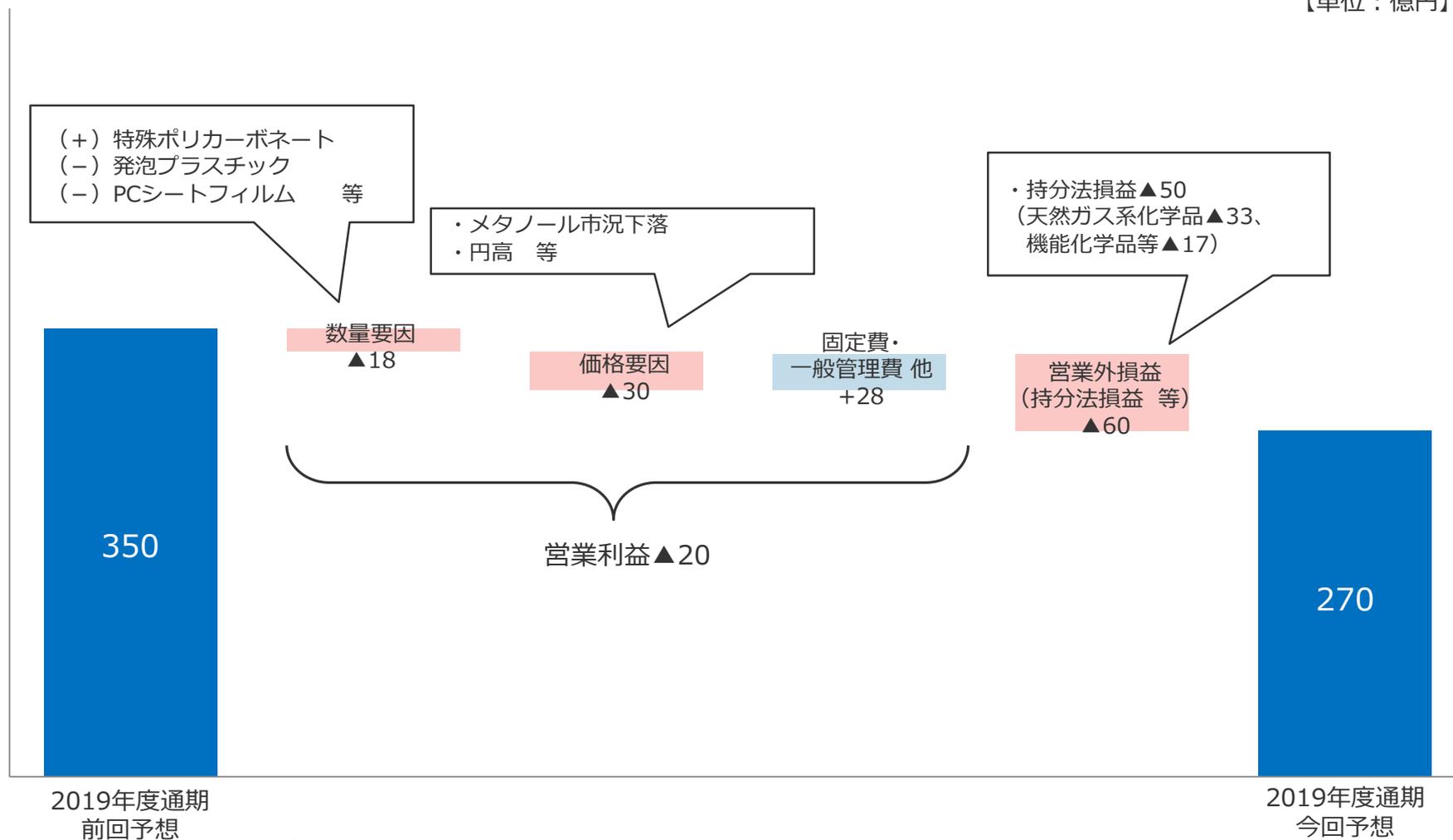
	2019年度 今回予想	2019年度 前回予想*	増 減		2018年度 実績
			金額	%	
売上高	6,100	6,300	▲200	▲3.2%	6,489
営業利益	310	330	▲20	▲6.1%	413
(持分法損益)	(▲15)	(35)	(▲50)	-	(284)
経常利益	270	350	▲80	▲22.9%	691
税金等調整前当期純利益	300	380	▲80	▲21.1%	690
親会社株主に帰属する当期純利益	180	250	▲70	▲28.0%	550
一株当たり当期純利益(円/株)	85.45	117.76			257.46
R O E (%)	3.6	4.9			11.3
為替レート(JPY/USD)	107	110			111

為替影響：売上高▲90億円、営業利益▲22億円、経常利益▲30億円

* 2019年8月2日公表

2019年度 通期 経常利益予想 増減要因（対前回予想）

【単位：億円】

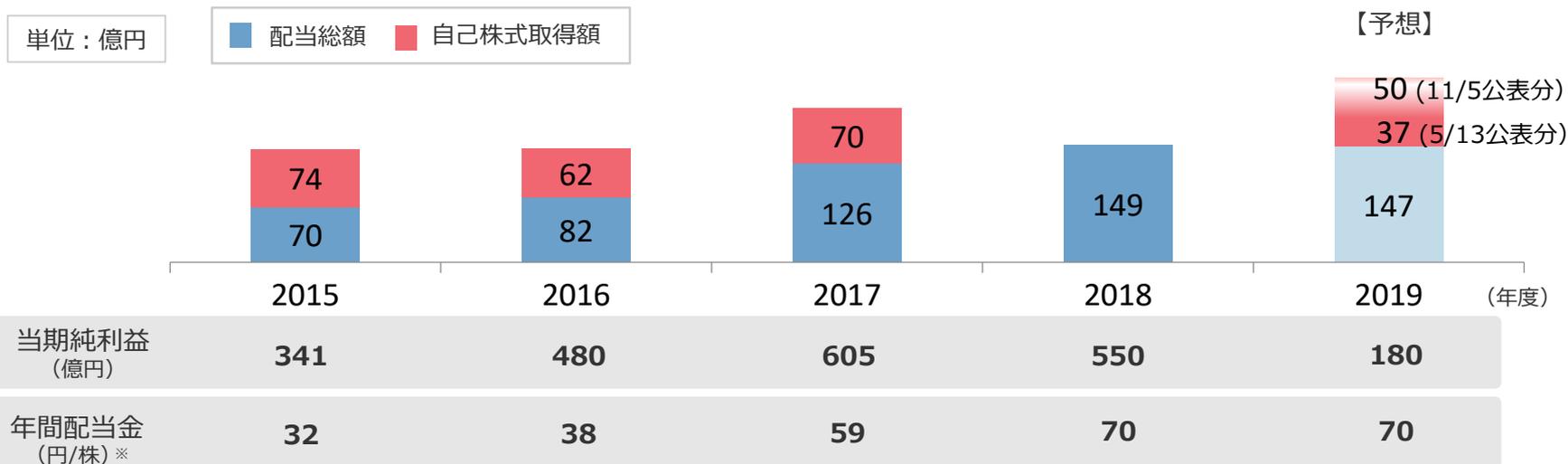


株主還元方針・株主還元

- 企業価値の向上を経営上の最優先課題と位置付け
- 配当は、安定配当の継続を基本に業績動向等を考慮して決定
- 内部留保の水準と株主還元の水準を勘案して、自己株式の取得も機動的に実施し、資本効率の向上と株主還元の充実を図る

• 2019年5月～7月：自己株式取得（37億円 270万株）、消却（270万株）を実施

• 2019年11月5日：自己株式取得（50億円 330万株）、消却（330万株）を決定



※当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しています。
配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しています。

1 | 2019年度 第2四半期 決算概要

2 | 2019年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス
～特殊芳香族化学品、光学樹脂レンズポリマー～

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

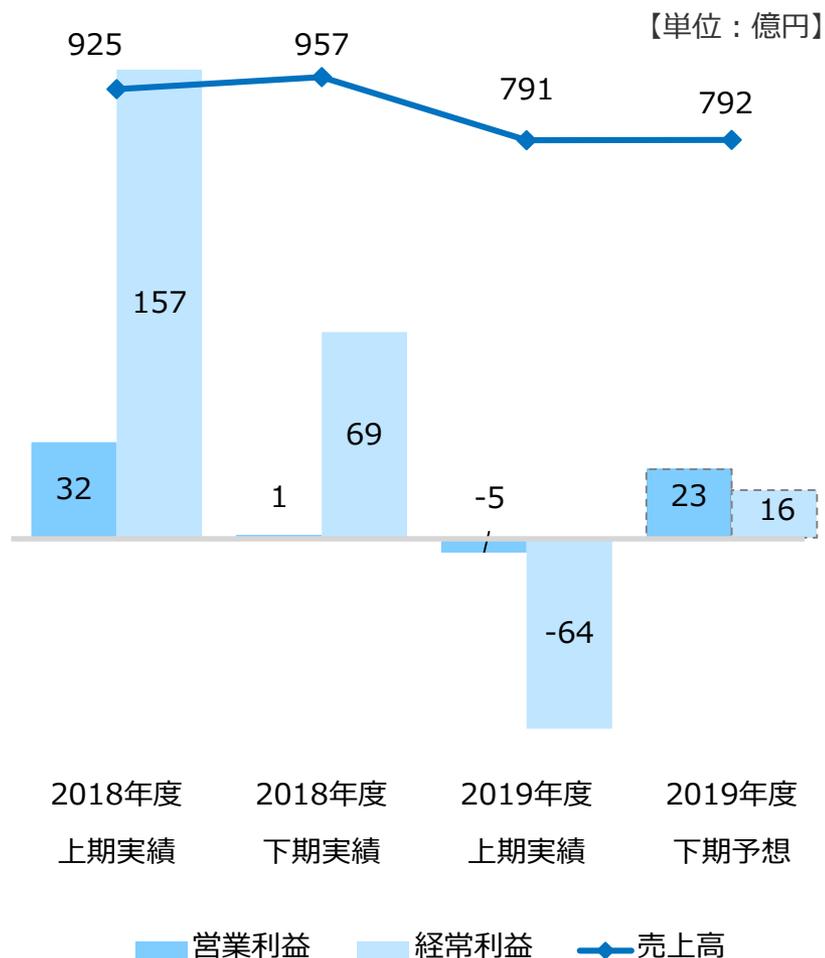
【単位：億円】

	2018年度実績			2019年度（前回予想）※1			2019年度（今回予想）			2020年度※2
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	中計目標 通期
売上高	3,283	3,206	6,489	3,100	3,200	6,300	3,033	3,066	6,100	7,500
天然ガス系化学品	925	957	1,883	811	873	1,685	791	792	1,584	2,100
芳香族化学品	1,073	1,043	2,117	1,045	1,030	2,076	1,031	972	2,003	2,400
機能化学品	1,061	995	2,057	1,029	1,065	2,095	994	1,069	2,064	2,400
特殊機能材	271	248	519	251	268	520	262	258	520	600
全社/調整	▲ 48	▲ 39	▲ 87	▲ 37	▲ 39	▲ 77	▲ 46	▲ 26	▲ 73	0
営業利益	289	124	413	140	190	330	160	149	310	650
天然ガス系化学品	32	1	33	▲ 2	33	31	▲ 5	23	17	70
芳香族化学品	101	45	146	75	67	142	77	55	133	230
機能化学品	141	70	212	66	84	150	80	68	148	300
特殊機能材	25	14	39	15	21	36	20	17	37	60
全社/調整	▲ 11	▲ 6	▲ 18	▲ 14	▲ 15	▲ 30	▲ 12	▲ 15	▲ 27	▲ 10
経常利益	465	226	691	120	230	350	116	153	270	800
天然ガス系化学品	157	69	226	▲ 38	43	5	▲ 64	16	▲ 47	150
芳香族化学品	97	42	139	67	66	133	73	53	127	220
機能化学品	178	103	282	82	110	192	94	81	175	370
特殊機能材	30	14	44	17	20	37	23	15	38	70
全社/調整	1	▲ 2	▲ 1	▲ 7	▲ 13	▲ 20	▲ 10	▲ 14	▲ 24	▲ 10

※1 2019年8月2日公表

※2 2018年5月11日公表 中期経営計画「MGC Advance2020」 経常利益は2019年5月13日修正後

天然ガス系化学品



● 2019年度 上期実績（前年同期比）

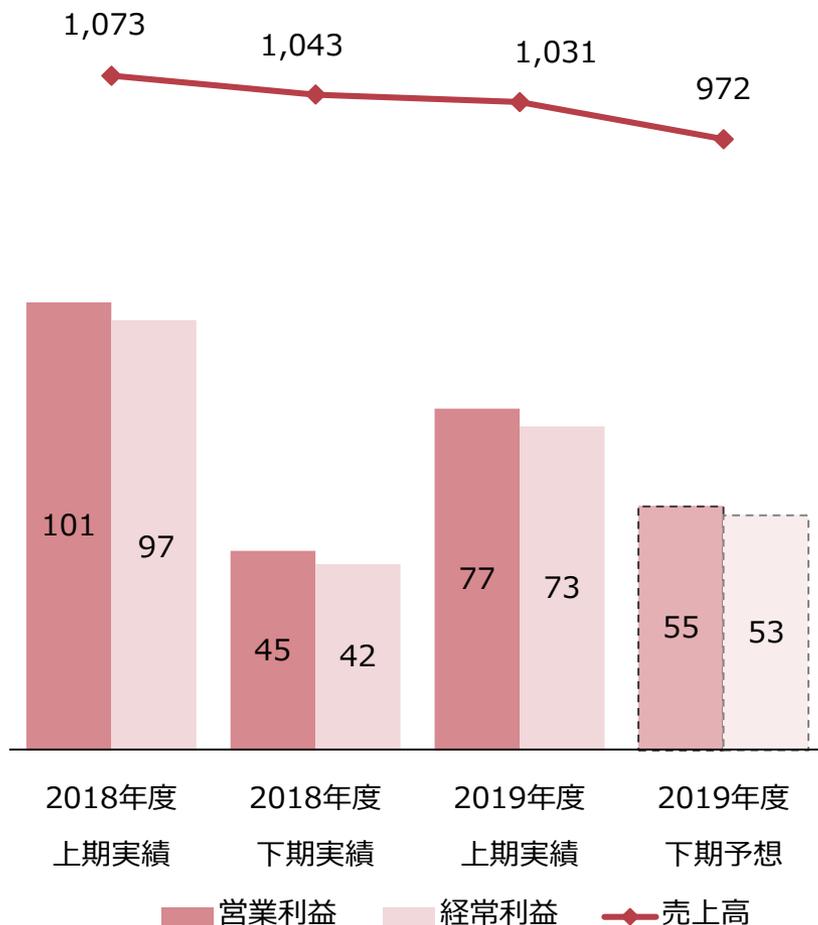
- ◆メタノール市況：18年度上期：408ドル/MT
→19年度上期：277ドル/MT
- ◆営業利益：メタノール、MMA系製品、ネオペンチルグリコールの市況下落等により減益
- ◆持分法損益：10ページ記載の通り、サウジアラビア事業での一過性費用の計上、合併事業スキーム変更、市況下落等により大幅な減益

● 2019年度 下期予想（上期実績比）

- ◆メタノール市況：上期を若干下回る水準を予想
（上期：277ドル/MT→下期：270ドル/MT）
- ◆営業利益：メタノール在庫要因の改善、メタノール誘導品や子会社の損益改善を予想
- ◆持分法損益：上期の一過性費用剥落により、回復を予想。トリニダード・トバゴ新工場の運転開始は19年度後半の予定で、収益貢献は20年度の見通し

芳香族化学品

【単位：億円】



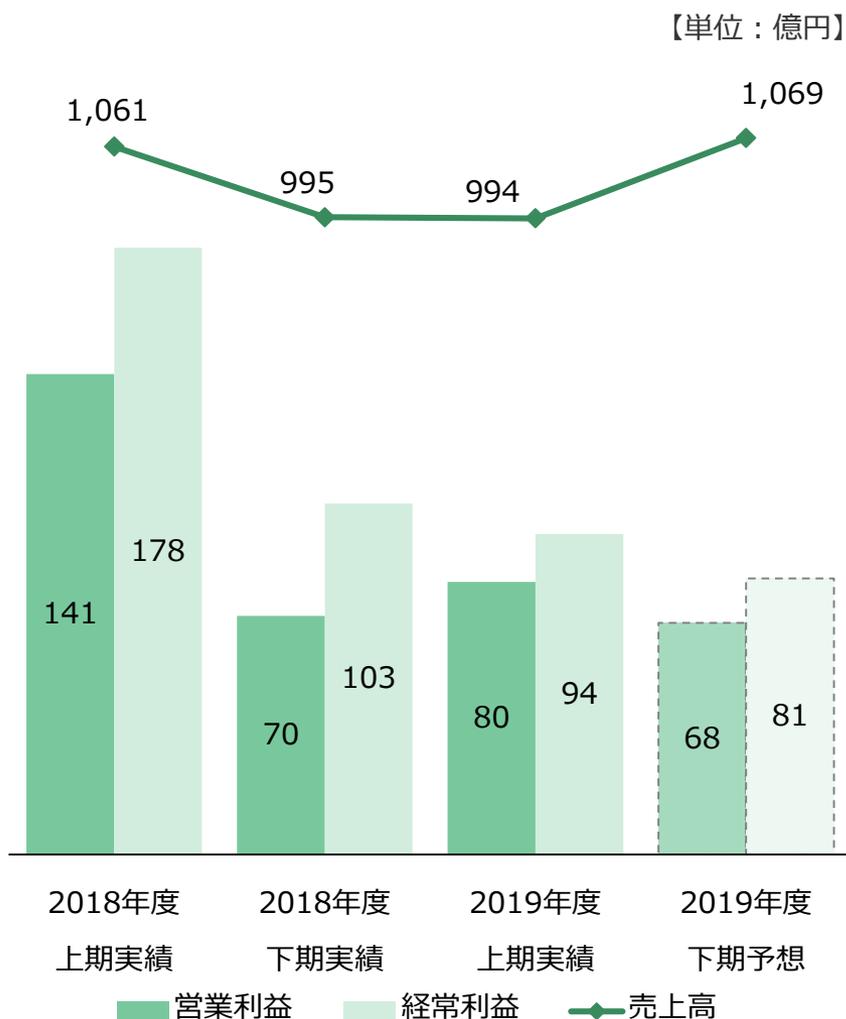
● 2019年度 上期実績（前年同期比）

- ◆ 特殊芳香族化学品*：販売数量が増加し、増収増益（24ページ参照）
*メタキシレンジアミン（MXDA）、1,3-BAC、MXナイロン、芳香族アルデヒド
- ◆ 高純度イソフタル酸(PIA)：市況下落により大幅な減益
- ◆ 発泡プラスチック(JSP)：需要低迷の影響や新規需要へ向けた生産体制構築に伴う固定費の増加などにより減益

● 2019年度 下期予想（上期実績比）

- ◆ 特殊芳香族化学品：上期に一部前倒し出荷があった影響で販売数量の減少を見込むも、需要は堅調
- ◆ PIA：スプレッドは低水準で推移する見通し
- ◆ 単体は水島工場の定期修繕もあり、減益を見込む
- ◆ JSP：上期水準から若干の回復を想定

機能化学品



● 2019年度 上期実績（前年同期比）

- ◆ 無機化学品：超純過酸化水素の北米新工場立ち上げに伴う固定費の増加や過酸化水素の採算悪化等で減益
- ◆ ポリカーボネート(PC)：市況下落により大幅な減益
- ◆ 特殊PC：スマホ複眼化で販売数量が増加し、増益（25ページ参照）
- ◆ PCシートフィルム：車載・ゲーム機向けは堅調も、フラットパネルディスプレイ向けが減少

● 2019年度 下期予想（上期実績比）

- ◆ 無機化学品：北米新工場の本格的な収益貢献は20年度の見通し
- ◆ PC：PC-BPAスプレッドは低水準が続く見通し。高付加価値比率の向上に注力
- ◆ 特殊PC：引き続き販売数量が好調に推移する見通し
- ◆ PCシートフィルム：フラットパネルディスプレイ向けの需要低迷が継続。車載・ゲーム機向けに注力

特殊機能材

【単位：億円】

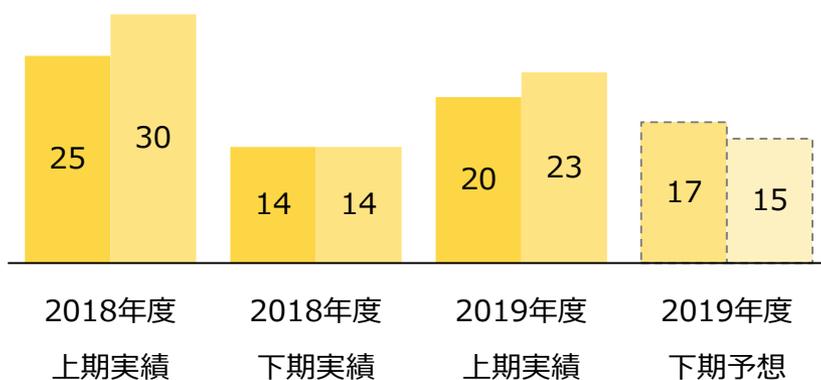


● 2019年度 上期実績（前年同期比）

- ◆ 電子材料：スマホを中心に需要が回復したものの、前年同期に好調であったメモリー分野は回復途上で減益
- ◆ 脱酸素剤：国内菓子用途等が堅調に推移し、前年同期並みの損益

● 2019年度 下期予想（上期実績比）

- ◆ 電子材料：メモリー分野の回復や5Gスマホ向けの需要拡大を見込み、販売数量が増加する見通し
- ◆ 脱酸素剤：季節要因による国内食品用途の販売数量増加を見込む



■ 営業利益 ■ 経常利益 ◆ 売上高

1 | 2019年度 第2四半期 決算概要

2 | 2019年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | **トピックス**
～特殊芳香族化学品、光学樹脂レンズポリマー～

トピックス①～特殊芳香族化学品※1～

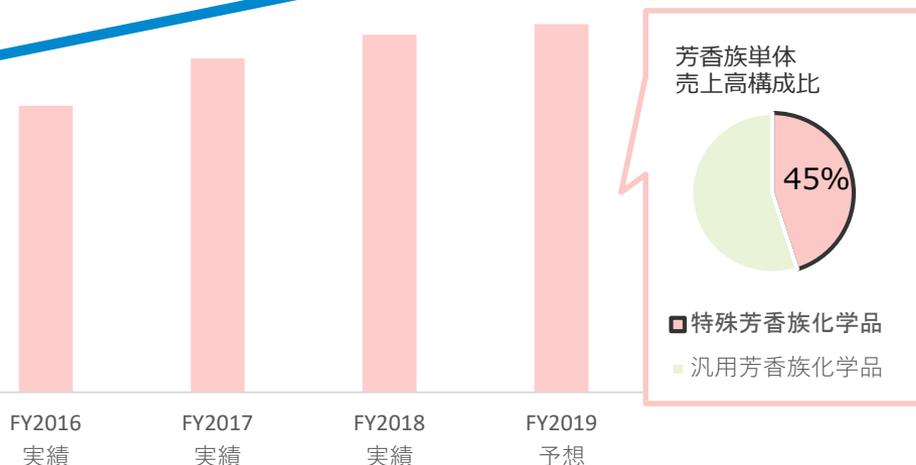
※1 MXDA、1,3-BAC、芳香族アルデヒド、MXナイロン

超強酸HF/BF₃を使いこなす高い技術力をベースに、ワールドニッチな製品が伸長中

- ◆ MXDA：需給タイトな状況が継続、今期は触媒を含めたプロセス改良で生産能力増
- ◆ 1,3-BAC：エポキシ樹脂の硬化剤用途で伸長。欧州のCFRP※2用途にも注力※2 炭素繊維強化樹脂
- ◆ 芳香族アルデヒド：香料や樹脂添加剤用途向けで堅調な伸び
- ◆ MXDAとアルデヒドは増産を検討中、2019年度内に最終判断を予定

特殊芳香族化学品 売上高推移

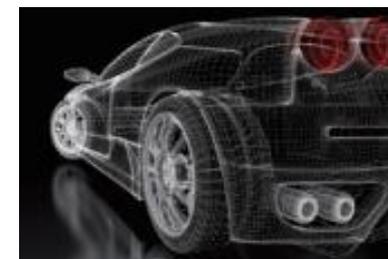
3年間で約30%増の見通し



<1.3BAC使用例>



床用塗料



CFRP用エポキシ樹脂

<芳香族アルデヒド使用例>



香料用途



樹脂添加剤用途

トピックス②～光学樹脂レンズポリマー～

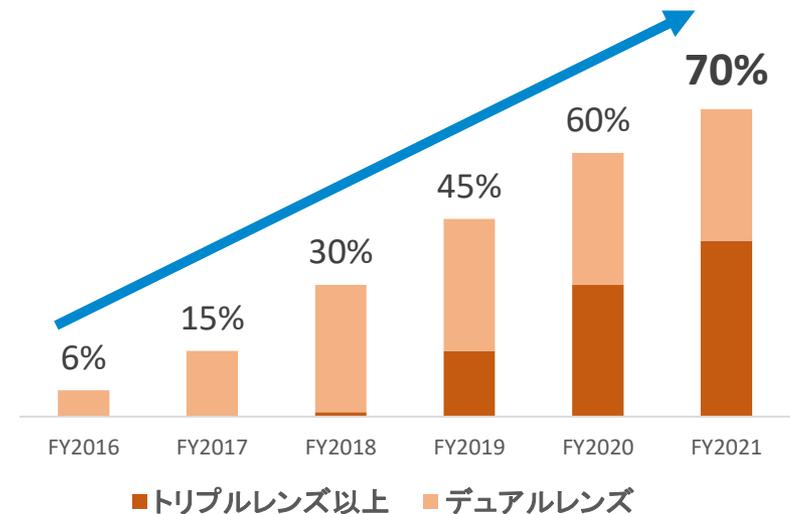
世界最高の屈折率でスマホレンズの薄型化に貢献、「市村産業賞 本賞」を2017年に受賞
複眼化を背景に数量が拡大中

- ◆ スマホの複眼化が更に進展することで、需要が増加する見通し
- ◆ 世界最高の屈折率1.68を誇るEP-10000を本年9月にリリース
- ◆ 鹿島工場の新プラントは本年10月より商業運転を開始、生産能力は3,000トン/年から5,000トン/年へ
- ◆ メガネレンズ用材料の販売も拡大中

光学樹脂レンズポリマー 売上数量推移



スマホ複眼化比率の推移 (当社想定)



Appendix

参考： 各種指標（1）

【単位：億円】

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019 (予)
設備投資額 (上期)	354 (146)	424 (224)	309 (177)	254 (138)	222 (103)	305 (149)	350 (137)	309 (139)	392 (186)	480 (224)
減価償却費 (上期)	290 (138)	277 (134)	230 (107)	235 (114)	237 (115)	267 (131)	256 (122)	270 (131)	274 (135)	290 (144)
研究開発費 (上期)	164 (74)	174 (88)	151 (72)	161 (80)	168 (80)	189 (92)	192 (96)	189 (95)	186 (91)	200 (94)
年度末人員(人)	4,979	5,216	5,323	5,445	8,254	8,176	8,034	8,009	8,276	9,000
一株当たり当期純利益 (円/株)*	84	55	▲35	66	192	154	222	281	257	85
総資産経常利益率 (%)	6.5	4.5	4.6	4.8	5.8	5.9	8.4	10.6	8.7	3.4
自己資本当期利益率 (%)	6.9	4.4	▲2.8	5.0	12.6	9.0	12.0	13.6	11.3	3.6
配当金(円/株)* (うち2Q末)	16.0 (8.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	28.0 (14.0)	32.0 (16.0)	38.0 (16.0)	59.0 (24.0)	70.0 (35.0)	70.0 (35.0)

*当社は2016年10月1日に株式併合（2株→1株）を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

参考： 各種指標（2） セグメント別 設備投資額・減価償却費（連結）

【単位：億円】

年度		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
設備投資額(※)	天然ガス系化学品	140	139	63	45	57	53	90	60	57
	芳香族化学品	45	47	57	23	40	106	105	113	146
	機能化学品	148	216	150	112	76	99	81	110	144
	特殊機能材	18	18	33	66	43	38	66	19	23
	その他	3	1	3	5	3	7	5	6	21
	合計	354	424	309	254	222	305	350	309	392
減価償却費	天然ガス系化学品	86	77	62	63	69	61	50	51	55
	芳香族化学品	78	77	58	41	39	82	85	85	87
	機能化学品	80	84	77	95	92	88	86	91	87
	特殊機能材	42	35	27	31	33	30	30	35	36
	その他	4	3	3	3	3	3	3	5	8
	合計	290	277	230	235	237	267	256	270	274

※固定資産計上ベース

参考： 各種指標 (3)

	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度 中計
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期実績	下期予想	前提※2
為替(JPY/USD)	122	118	105	112	111	111	110	112	109	105	110
為替(JPY/EUR)	135	130	118	119	126	133	130	127	121	120	-
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	56	36	43	51	50	62	73	65	64	60	60
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価 格	301	230	230	327	296	381	408	335	277	270	355
原料キシレン (US\$/MT)	740	630	660	680	650	725	845	730	704	705	705
ビスフェノールA (US\$/MT)※1	950 ~1,500	850 ~1,100	1,000 ~1,200	1,000 ~1,400	1,100 ~1,300	1,200 ~1,700	1,600 ~1,900	1,200 ~1,800	1,000 ~1,450	1,000 ~1,300	1,000 ~1,600
ポリカーボネート (US\$/MT)※1	2,100 ~2,650	2,000 ~2,400	2,200 ~2,500	2,400 ~2,800	2,500 ~2,900	2,900 ~3,900	2,700 ~3,800	2,100 ~2,800	1,900 ~2,250	1,850 ~2,100	2,300 ~3,200

※1 期間中の最小値および最大値を記載

※2 2018年5月 中期経営計画策定時の前提条件

感応度 (概算)

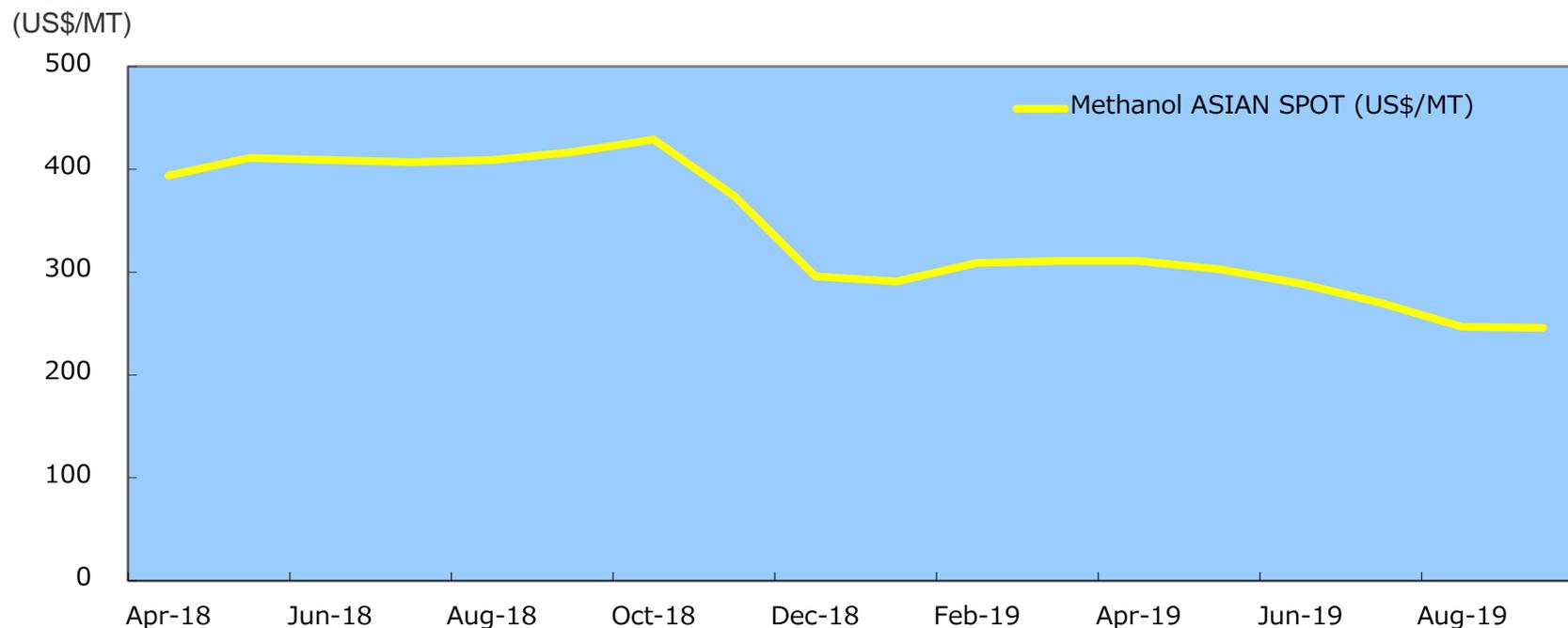
為替 (USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益7億円/年、経常利益9億円/年の減益 (増益)

為替 (EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益0.6億円/年、経常利益0.6億円/年の減益 (増益)

原油(Dubai) : 1\$/BBLの上昇(下落)で、2億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず

メタノール : メタノール市況1\$/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

参考：メタノール市況の推移



2019年度 上期実績：277 US\$ /MT

既存メタノールプラントの安定稼働、および一般化学品向け需要の停滞により、需給バランスが緩和。

2019年度 下期予想：270 US\$ /MT

冬場に向け、天然ガスの供給制限によりメタノール生産は減少が見込まれる一方、燃料向けメタノール需要が増加することから、需給バランスは緩やかな回復を予想。下期後半にトリニダード・トバゴ（100万MT/Y）の稼働を予定。

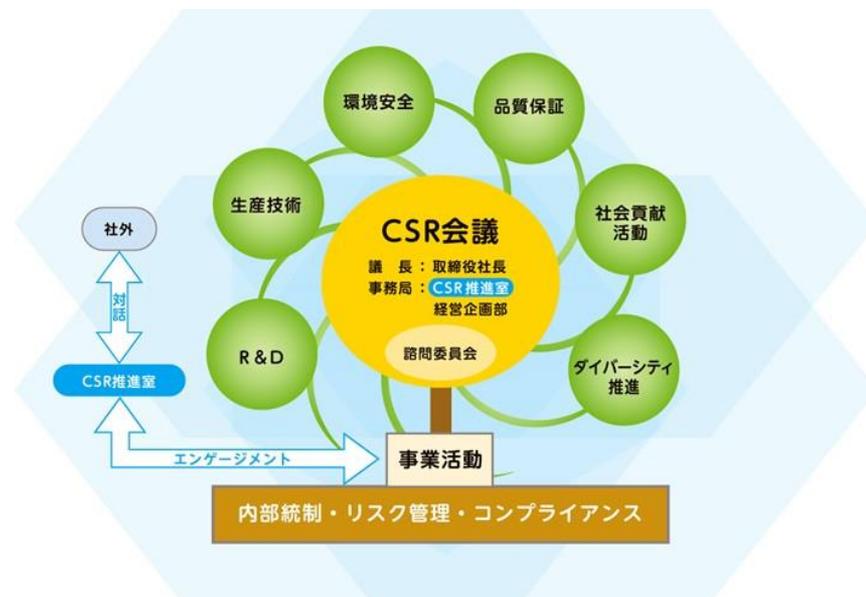
参考： トピックスー1

CSR推進室の設置

当社はグループビジョン「社会と分かち合える価値の創造」の下、事業活動を展開しております。この度、改めてCSR目線からの経営課題解決を長期的な企業価値の創造及び会社の持続的成長を促す経営施策として位置づけ、CSR経営を進めるべく新たにCSR推進室を設置いたしました。

CSR推進室は、部門横断的な社長直属の組織として、環境・社会・企業統治といったESG要因に代表される社内の“非財務情報”を統括し、CSRに係る方針・戦略の検討を行うとともに、社内への働きかけや社外との関係構築を行います。また、CSR推進に係る方針・戦略・計画等を審議・決定するCSRに関する会議では、経営企画部とともに事務局を担います。

昨今、持続可能な社会の実現に向け、企業が果たす役割への関心も拡大の一途にあります。当社は、CSR推進室の活動を通じてESGやサステナビリティに対する社会からの期待に今後尚一層応えてまいります。



【ご案内】「コーポレートレポート2019」を発行

今年も財務情報、非財務情報を一冊にまとめた「コーポレートレポート2019」を発行しております。

当社webサイト (<https://www.mgc.co.jp/corporate/report.html>) に掲載しておりますので、ぜひご一読ください。

参考： トピックスー2

進化を続けるユピゼータ®EP

スマートフォンのカメラ性能の高度化がますます求められる中、当社の特殊ポリカーボネート「ユピゼータ®EP」は高屈折率（レンズの薄型化に寄与）と低複屈折性（画像の鮮明化に寄与）を高い次元で両立し、カメラレンズに欠かせない材料となっています。9月には最新グレードとして世界最高の屈折率1.68を有する「ユピゼータ®EP-10000」の販売を開始し、スマホカメラの進化を支えています。

また、増加する需要に応え、10月から新プラントを稼働。生産能力を1.7倍に増強するとともに、環境負荷の削減にも取り組んでおり、レンズの製造工程で発生していた廃棄物をゼロにするべく「特殊ポリカーボネート・リサイクルプロジェクト」を開始しています。



新設した特殊ポリカーボネート「ユピゼータ®EP」製造プラント（鹿島工場）

23年ぶりの大規模地熱発電所の稼働開始

当社が電源開発株式会社、三菱マテリアル株式会社とともに共同出資する湯沢地熱株式会社（秋田県湯沢市）は、本年5月より山葵沢地熱発電所の運転を開始しました。本発電所は、出力46,199kWの発電を行います。出力10,000kWを超える大規模地熱発電所の稼働は国内では23年ぶりです。

また、同じく当社が出資する安比地熱株式会社（岩手県八幡平市）でも本年8月より安比地熱発電所の建設工事を開始いたしました。2024年4月の運転開始を目指し、引き続き環境に優しい地熱発電の活用を進めてまいります。



山葵沢地熱発電所

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社

広報 I R 部

TEL 03-3283-5041

<https://www.mgc.co.jp>

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、メールでお知らせいたします。
ぜひご登録ください。





社会と分かち合える価値の創造

 三菱ガス化学株式会社